

# 会 議 録

## 1 会議名

平成29年度第6回中郷区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### （1）協議（公開）

自主審議事項について

視察研修について

### （2）その他（公開）

## 3 開催日時

平成29年9月28日（木）午後6時30分から午後7時50分まで

## 4 開催場所

中郷区総合事務所 第4会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：荒川清尊、岡田雅範、岡田龍一、坂田浪平、高橋京子、高橋達也、  
竹内昭彦、竹内靖彦、古川由美子、松原功、水嶋敏昭、陸川昇一

・事務局：中郷区総合事務所 木村雄二所長、小嶋淳一次長、城戸俊夫市民生活・  
福祉グループ、教育・文化グループ長

総務・地域振興グループ 丸山良彦班長、渡辺智則主任

〔 以下、総務・地域振興グループは総務G、市民生活・福祉グループは  
市民G、教育・文化グループは教育G、グループ長はG長と表記 〕

## 8 発言の内容（要旨）

### 【丸山班長】

・会議の開会を宣言

### 【高橋会長】

・挨拶

#### 【丸山班長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

#### 【高橋会長】

- ・会議録確認：「岡田龍一」委員と「陸川昇一」委員に依頼。

始めに、協議事項(1)の「自主審議事項について」協議する。

先月は、意見交換会に参加した各委員から一言ずつ感想を述べてもらうとともに、課題や目指すべき方向性の再整理について協議したところである。今後は部門別に別れて分科会形式で行うのか、これまで通り全体協議で行うのかなども含め、次回からの審議の進め方について協議したいと考えている。各委員の発言を求める。

#### 【坂田委員】

区内の3地域に出向き住民から様々な意見を聞いた。これに先立ち、地域協議会ではこれまで協議を重ね課題の整理をしてきたが、各地域から出た意見を見てみると同じような課題を挙げているものも幾つかある。このため、地域協議会で整理した課題と3地域で出た意見の中から、重点的に行うべき課題を更に整理し、その中で喫緊に取り組むべき事項と、ある程度時間をかけて解決していくべき事項に振り分けていくことが大切である。

#### 【高橋会長】

具体的にどのようなものが考えられるか。

#### 【坂田委員】

3地域で共通しているものとして、「公共交通」と「二本木駅」、「子育て支援」が挙げられると思う。また、地域協議会で整理した課題の中には全国的な課題となっているものがあり、具体的には「少子高齢化」や「農業振興」などが挙げられる。全てを取り上げることは難しいことから、ある程度方向性を絞っていくことが必要だと思う。

#### 【岡田(龍)委員】

特に重点的に取り組む項目では、長期的に見るべきものと短期的なものに分類するのがよいのではないかと考えている。坂田委員が言われた「公共交通」、「二本木駅」、「子育て支援」に関しては、特に直近で取り組むべき課題であると言える。このように重点的なものを精査し、分科会形式で協議を進めてみてはどうか。

### 【竹内(靖)委員】

最終的には、勝馬の基金をどのように使うのかということに結びつけていかなければならない。雲を掴むような話ばかりしていても仕方がない。課題は大きなものから小さいものまで様々あるが、基金の使途とどのように結び付けていくのかということを考えていくことが大切である。この辺りを論点にしていけばよいのではないか。

### 【荒川委員】

課題はいろいろとあるが、ここまで来たらある程度絞っていかなければならないと思う。例えば、暮らしの分野では「公共交通」といったように一定の方向性を示した方がよい。そこから、またいろいろなことが見えてくるのではないだろうか。そのようにしないと、漠然とした中で協議が長くなってしまうように思えてならない。

### 【古川委員】

短期的に取り組むべきもので、かつお金があれば解決できる課題を3つ程度に絞ったうえで分科会にて協議を進めていくことが必要ではないか。いつまでも全体で話し合っても先へ進まないような気がする。まずは直ぐに実行できるようなものから手をつけていき、少しでも中郷区の住民の希望に添えることを早く実行した方がよいのではないだろうか。

### 【陸川委員】

ほとんどの課題は、人口さえ増えればある程度解決できるものだと思う。このため、今後のことを考えると若者が住みやすい地域にしていけるような形にできればよいと思っている。若者がこの地域から出ていかななくてもよい環境づくりに取り組んでいかなければならない。漠然と暮らしや福祉などの項目を課題に挙げてみても、若者はどのように感じているのだろうか。課題となっている公共交通を例にした場合、若者は全くといってもよいほど考えていないと思う。自家用車があることから、基本的に乗合タクシーを利用する必要性はないことになる。このため、少し違う視点で進めていくことも必要かと思っている。板倉区では婚活を目的とした事業を計画したそうである。聞いた話では、男性はある程度の人数が集まったが、女性は数人しか集まらなかったとのことである。当区においても、独身男性がかなりいるようなので、婚活する場を提供していくことは若者を増やしていく一つの手ではないかと思う。

#### 【竹内(昭)委員】

地域に人が残ってくれないと、なかなか上手くいかないことが多いと思うので、そこに繋がるような内容で検討できればよいと感じている。方法としては、いろいろなやり方があると思う。せっかく地域に出向いた意見交換会を行ったのだから、この中から勝馬基金を使って何ができるのかを決めていかなければならない。あまり、ただだらといかないように方向性を絞っていくことが大切だと思う。方法としては、テーマ別に分科会形式により揉んでもらうことがよいのではないかと。少人数になれば、意見も出しやすくなる。分科会で話し合った結果を全体協議で報告し、まとめていくのがよいのではないかと。

#### 【岡田(龍)委員】

勝馬基金の使途という観点からすると、例えば公共交通にこの基金を充てるということは難しいことになる。使途は条例できちんと定められていることから、使える範囲はおのずと限られてくる。この辺りを考慮して、今後の方向性を見定めていくのがよいのではないかと。その方が話も早いし、実現性をもった協議が進められると思う。勝馬基金の活用というのを前提に考えていくべきである。

#### 【坂田委員】

勝馬基金を使って行えることは限られると思う。このため、基金を設立した当時の趣旨である教育や福祉、環境に沿ったものをテーマにし、分科会を設けてはどうだろうか。これと同時に他の項目についても、中郷区で重要と思われる課題はこれとは別に審議を進めていかなければならない。要は二本立てが必要だと思う。

#### 【高橋会長】

地域協議会で整理した「地域の課題と目指すべき方向性」はそのような趣旨で作成したものである。初めから基金の使途だけに絞ってしまうと、課題そのものも限られてくることになる。このため、中郷区としてどのような課題があるのか全体を通して挙げてもらったものである。しかしながら、これから具体的に進めることになった場合、やはり喫緊で中郷区のためになることについて、基金の条例に沿った中で活用していくことになる。農業振興など長期的な課題はじっくりと考えていけばよいことなのではないかと。

#### 【松原委員】

公共交通について発言したい。昨年、視察研修に行った生坂村はわずか人口 1,500 人程度の村であるにも関わらず、村営循環バスを運行している。基金をこのようなことに充てることはできないのだろうか。中郷区を営業エリアとするタクシー会社も限られている状況である。現在、我々は自分で車を運転できるからよいが、一定の年齢が来ると免許返納の運動が高まってくることになる。そうなると、この地域は一層住みにくくなってしまうことになる。交通の便というのは、これからも重点事項として皆で考えていくべきだと感じているところである。

#### 【水嶋委員】

地域に出向いた意見交換会での発言は、皆さんあまり考えず普段感じていることを話したような傾向が見受けられる。発言のあった項目に対して、地域協議会では一生懸命に取り組んでいるのに、無責任な発言をされてもどのように対応してよいかわからないこともあるかと思う。ここに載っている発言内容をどの程度信用して進めればよいのか、すっきりしないところがある。

#### 【高橋会長】

それは自身が判断し、その旨意見を出してもらえればと思う。人それぞれ感じ方は違うものである。全体として捉えられるとなかなか難しいことになる。1 委員として思うことを発言していただければよいのではないか。そうしなければ前に進んでいかないことになる。

#### 【古川委員】

いろんな意見が出ることはよいのだが、意見ばかり言っているとそれで終わってしまうことになる。次に進むことを考えていって欲しい。

#### 【高橋委員】

話し合いの方向としては、これでよいのではないかと思っている。問題を提起した中でいくつかテーマを決め、分科会を設け話し合っていく。要は何を課題にするのか。先ほど水嶋委員より発言があったとおり、地域で出された課題がどこまで信頼性があり、本音が出ているのか疑問ではある。しかしながら、私達のよりどころとするのは地域から出た意見である。このため、各地域で出ている意見を取り上げていくのは自然なことだと思う。意見交換会を開催したからには、それを取り上げることが私達の責務だと思っている。

## 【岡田副会長】

勝馬基金は非常にデリケートな性質のものである。中郷区のために何でも使ってよいというものではない。確かに、同基金は中郷区の特定期源だが、本当に中郷区だけで使ってよいものなのか他区の住民も疑問に思っているのではないかと。他区ではこのような特定期源は既に無くなっている状況である。そのような中、他区からあれこれ言われぬようにするには、中郷区ならではの特色あるものに使えばよいのではないかと考えている。これまで出された課題は、確かに中郷区が抱えている課題ではあるが、中郷区に限ったことではないものも多くある。そのような課題は、他の地域協議会などと連携して、行政に対し働きかけを行っていけばよいことである。いろいろな課題を一つ一つ審議しては、時間がいくらあっても足りないことになる。

## 【高橋会長】

一通り皆さんから発言いただいたので、ここで私の考え方を提案したい。先ほど坂田委員からも発言のあった二本木駅の活性化や子育て支援の他、暮らしでの観点からは克雪・利雪として雪に強い住みやすい中郷区を考えていかなければならないとされている。勝馬の基金は、平成30年度という期限を定めずにしても、いずれは一般財源化という方向性が示されていることから、基本的には何かをしていく運営費に使うということになると限界が生じてくることになる。そのようなことを考えると、二本木駅活性化の中では、駅前トイレの改修などが使い道としては妥当なものになるのではないかと考えている。地域内外の人達を呼び込むためにも、早急に整備することが必要である。一方、子育てに係る意見として出たのが、中学生のスクールバスの件である。南部や西部地区は学校から遠方の地域である。小学生はスクールバスが出ているのに、何故中学生は乗れないのかという意見もあった。これも何とかしていくことで、結果的に子育てし易い環境づくりに繋がっていくことになると思っている。学校から遠く離れている地域から通えるようにすることは大切なことである。これは基金を使って云々ではなく、現在スクールバスを代行運行しているまちづくり振興会が主体になるのだろうが、学校関係者や保護者との意見交換を進めていく必要があると思う。また、暮らしの面では住みやすい中郷区を目指していかなければならない。中郷区は上越市の中でも雪が多い地域である。そのような中、昨年度から問題になっている消雪パイプは非常に老朽化が進んでおり、何とか改修していくことが必要であるが、市へ要望してもなかなか順番は回ってこないと思っている。防衛調整交付金を上手く

使って充当していくなど、何かよい方法がないか協議していければと思う。今ほど申し上げた3点以外の課題で、例えば農業問題や少子高齢化などの大きなものについては、長期的な形で協議しないと結論はなかなか出ないのではないだろうか。「二本木駅」、「スクールバス」、「消雪パイプ」以上の3点を喫緊に進める課題として、副会長や事務局と協議し方向性をまとめたうえ、次回までに皆さんに提示したいと考えている。これらの課題を地域協議会で全て進めるのではなく、例えば駅前トイレは鉄道会社からも入ってもらうことが必要になるかと思う。また、観光協会や商工会が主体となりイベントを開催するなど駅周辺の活性化に向け取り組んでおり、協議会のメンバーもこの中に入って別途進めていくことも必要ではないだろうか。実際に基金を使うことになれば、これらのことをまとめ上げて市に対し事業の計画性やビジョンを説明したうえで、基金を充てたいということを要望していくことになる。最終的には、提案書なり報告書にて市へ提出していければと思っている。また、消雪パイプは仮に防衛調整交付金を使うことになった場合、先方との調整も当然のことながら必要になってくる。事務所のキーマンとなる職員と関係者を交えて協議を進めていくことになるのではないか。スクールバスについては、恐らく窓口が教育委員会になるのだろうが、そのようなところも交えて話を進めていけばよいのではないかと思う。このように内容を絞ったうえ、次回提案したいと考えている。

#### 【古川委員】

今ほど話のあった、駅前トイレや消雪パイプ、スクールバスは地域協議会の委員が知恵を絞って何かをするというものではない。地域協議会が知恵を出して、問題を解決するということはしないのか。

#### 【高橋会長】

今ほど申し上げたのは、喫緊に進めるべき課題として挙げたものである。他に、これはどうかなどといった意見があるようであれば、次回までに皆さんから提案してもらいたい。喫緊で進めることを、地域協議会のみで行うと非常に労力がかかることになる。関係する団体等を含め協議をした場合、どのようなメンバーになるかははっきりしないが、いずれにしてもそのような関係者も中に入って進めていくことになると考えている。

**【古川委員】**

例えば、少子化対策として、ある地区が婚活を計画したとする。このようなことは直ぐにできるものである。出てきた課題の中でも、直ぐに取り組めるものもあると思う。1年がかりでできるものもあれば、長期的になるものもあるなど様々である。直ぐにできて地元の住民が喜ぶようなことを、皆で話し合っただけで計画していくことはできないのだろうか。

**【岡田副会長】**

直ぐにできるから行うということではなく、何を優先して行うのか決めるということが、地域協議会としての役割の根本にはある。

**【古川委員】**

それはわかっているが、考えてばかりではなかなか前に進むことができない。問題点があったら、一つ一つ解決していくことも大事ではないか。解決できることから手を付けるべきではないのか。それが、最優先なのかそうではないのかは、課題の内容によって異なってくると思うが、このようにすればとりあえず問題は減っていくのではないだろうか。

**【岡田(龍)委員】**

古川委員の言っていることは理解できるが、地域協議会は自ら何かをするという性質のものではなく、何かに結び付けていくものであると思っている。イベントを開催するとか何かを実行することは、まちづくり振興会や観光協会など関係団体から行ってもらえればよいことである。地域協議会としては、基金をどのように使っていくのかという方向性を示すことが重要である。駅前トイレの改修や中学校の送迎バスをどうするのかという課題に対し、キーマンとなって進めていくことが地域協議会としての役割ではないかと思っているところである。

**【古川委員】**

例えば、婚活にしても何も私たちが招待状を書くとは言っていない。そのようなことを行ってくれそうな団体に対し、話しかけることも地域協議会としての働きかけになるのではないか。働きかけないと、なかなか実行には結びつかないと思う。適切な団体に対し働きかけるよう、決められることは早く決めていきたいと思っている。



**【高橋会長】**

中郷区青年会組織を立ち上げた時、協議会の中で話があり、まちづくり振興会との調整はどうか、キーマンは誰にするのか、いろいろと話し合っただけで決めてきた経緯がある。このような仕掛けづくりをすることが必要であると思う。

**【坂田委員】**

基金については、当初平成 30 年度をもって廃止するという方針が市から示された。これが、年度を定めず基金を使い切るまで廃止しないという方針に変わっていったが、基金の額も限られている。このため、いつまでもだらだらと引っ張るのではなく、年度を区切ってその範囲内の額でできる事業を決めていくことが必要だと思う。このため、目標年度を定めることがよいのではないだろうか。

**【高橋会長】**

ちなみに、具体的に目標年度はいつがよいと思っているのか。

**【坂田委員】**

あと 2 年とか 3 年とか定めることにより、これを目途にして事業を決めていくということである。

**【高橋会長】**

これについては、年度当初申し上げたとおりであり、我々の任期の中で実施できるものは実施し、そうでないものはある程度の方向性を示して次へ繋げていきたいと考えている。基金ありきで話を進めることになると、狭い範囲のものになってしまう。このようなことを避けるため、分野などは定めずいろんなことを課題として挙げてもらった。このような経緯がこれまでにある。

**【坂田委員】**

それは理解しているが、今まで出てきた課題というのは、とても広範囲である。このため、勝馬基金については期限を決めた中でテーマを絞り込んでいくことも必要ではないかと思っている。

**【高橋会長】**

それでは、坂田委員が考えている期限はいつになるのか。

**【坂田委員】**

テーマによっても期限が異なるので、一概にいつまでとは言えない。

**【高橋会長】**

我々の任期である、残り 2 年のうちに期限に値する項目もある。このため、ある程度絞りこみを行い、そうでないものは次期メンバーに引き継いでいくことにしたい。現時点では何も決まっていない中で、期限を設けることはできないと思う。

**【坂田委員】**

私が言いたいのは、テーマを決める中で期限も付いて回るということだ。

**【高橋会長】**

我々の任期内に課題を絞り込むということは前から話しているとおりでである。

**【岡田(龍)委員】**

今ほど会長から挙げていただいたように、3 つの課題に絞ったことはよいことだと思う。次に繋がるステップの道筋ができたのではないだろうか。いろんな課題を漠然と協議するのではなく、このように課題を絞った中で進むべきである。

**【高橋会長】**

今回は、先ほど申し上げた課題について改めて提案するとともに、皆さんからいろいろと考えや意見を聞いていきたい。さらに、協議の進め方を分科会として行っていくかどうかも含めて決めたいと思っている。この中で、少し引っかかるのは教育・文化・スポーツの分野の課題があまり挙がってきていないことである。これは、学校など施設の問題等を含めて保護者や P T A などと協議していかなければならない分野であり、地域協議会だけではなかなか課題が挙げられないものであると思っている。5、6 年位前になるが、中学校の屋外の照明が暗く部活動に支障が生じている旨の話があった。これについては、基金の事業とは別に 2 灯新たに設置した経緯がある。市からの順番を待っていると、いつになるのかわからない。このため、基金を上手く使いながら、学校の施設関係を整備していく必要があるのかとも思っている。また、放課後児童クラブも現在手狭なところで行っているようである。これも、市へお願いしてもなかなか順番が回ってこないのではないだろうか。これらが充実することは、子育てのサポートにも繋がるのではないかと感じているところである。本日は、私の独自の視点から 3 点を重点的に取り組む課題として挙げさせていただいたが、皆さんも他に何か加えるものがあるか、次回までによく考えてきていただきたい。この課題よりも、もっと優先的に取り組むべき課題があると思われる方は、ぜひ発言いただき意見交換をしたいと思っている。

皆さん、他に意見等はあるか。

－全委員なし－

**【高橋会長】**

特にないようなので、この件については、これで閉じることとする。引き続き、新たに自主審議事項として加わった「経塚斎場の使用について」協議する。前回の地域協議会において、市に対する要望等について正副会長で案をまとめることで皆さんから了承いただいた。これを受け、副会長と相談・検討した結果、資料No.1の通り意見書という形で提案したい。各委員の意見等を求める。

**【高橋委員】**

確認したいことがある。文面を読んでみると、中郷区住民の立場としてはもっともなことが記載されていると思う。ただし、使用料金の一覧表を見てみると、差額の補助が半額であり高額となるが、果たして上越市は新上越斎場が供用開始されても本当にこのような予算立てが可能なのか疑問を感じる。実際、これが実現可能な要望なのかよくわからない。このことが膨らみ、他の施設に波及する恐れもあると思う。そのようになると予算の規模も高額になっていくのではないか、この表を見ながら感じたところである。

**【高橋会長】**

経塚斎場の件は、今年の1月に報告案件として所管課から報告を受けた後、4月より施行されているものである。中郷区住民が上越斎場を利用することは現実問題難しいことから、何とか経塚斎場を今まで通りの状況で利用できないかということで、市では料金の差額補助という対応措置がとられた。ただし、この補助については新上越斎場が供用開始されるまでの期間限定となっている。このことを、中郷区地域協議会としては承諾していないということである。仮に、供用開始後も経塚斎場を利用することになると、このままでは泣き泣き倍の料金を支払わなければならなくなる。このため、意見書という形で要望をまとめたものである。

－他、意見等なし－

**【高橋会長】**

それでは、市長に対し意見書を提出することにしてよいか。

－全委員賛同－

**【高橋会長】**

全委員より賛同いただいたので、意見書を提出することとする。内容等については案のとおりでよいか。

－全委員賛同－

**【高橋会長】**

全委員より賛同いただいたので、この文面で確定とする。市長へは本日付で意見書を提出することにしたい。協議事項（１）の「自主審議事項について」は、これで閉じることとする。

**【高橋会長】**

続いて、協議事項（２）の「視察研修について」協議する。

前回の地域協議会において視察先が決定されたが、この最終行程案について事務局の説明を求める。

**【渡辺主任】**

・資料No.2に基づき説明

**【高橋会長】**

今ほど説明に対し、質問・意見等を求める。

－全委員なし－

**【高橋会長】**

特にないようなので、案のとおり視察日を11月1日（水）としてよいか。

－全委員賛同－

**【高橋会長】**

皆さんから、賛同いただいたので視察日は11月1日（水）に決定する。事務局にお願いしたいのだが、研修先の資料を次回地域協議会で提示いただきたい。

**【高橋会長】**

それでは、協議事項（２）の「視察研修について」は、これで閉じることとする。

続いて「その他」に移るが、事務局何かあるか。

**【丸山班長】**

・地域協議会たより第43号（9月15日発行）について報告（編集委員竹内(靖)班長より補足コメント）

【高橋会長】

委員の皆さんから、他に何かあるか。

ー全委員なしー

【高橋会長】

他に発言がないため、これをもって本日の会議を終了する。

次回の会議は10月25日(水) 午後6時30分から「中郷区総合事務所」で行うこととする。

(終了 午後7時50分)

9 問合せ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165)

E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。